

科目区分 芸術文化課程 音楽文化コース・造形芸術コース
授業科目名 芸術概論

「芸術概論」の授業評価報告

美術教育講座 稲次保夫

1、授業の概要

この授業は、芸術文化課程の共通科目であり、受講者は、おもに音楽文化コース・造形芸術コースの1回生である。授業の目的は、科目名のとおり、およそ芸術とはどういうものかについて考えることである。授業の前半部では、音楽・美術・文芸・など一般に芸術と呼ばれるものに共通する性質から、およそ芸術とはどういうものかを考えた。授業の後半部では、一つ一つの作品に即しながら、それぞれの作品がもつ特徴から、芸術とはどういうものかを考えた。今年度の受講者は、芸術文化課程以外の者も含め、23名だった。

2、授業の展開

「芸術」という言葉は、人によってさまざまな使われ方をしているし、どのようなものを「芸術」と見なすかも人によってさまざまである。そこで、初回の授業では、「自分が芸術と思うもの」を、[音楽]・[美術]・[その他] それぞれについて一つ二つ挙げ、それぞれに各自簡単なコメントを記した。これを持ち寄ってグループワークを行い、グループでの話し合いを通して「気がついたこと」や「考えたこと」などを、同じ紙に書き加えた。次の回の授業では、この記述をもとに皆で話し合った。さまざまな「芸術」や「アート」について、かなり活発なやりとりがあり、とても面白かった。なかには、雨あがりの草の香り、流れる雲、虫の声などを「芸術」として挙げる者もあった。担当者は、「自然」と「芸術」とは別物と考えていたので、当惑してしまった。そこで、「芸術と自然」「テクネーとピュシス」について述べたテキストを配布して、皆で考えることにした。

さて、授業前半部では、深田康算の「芸術一般」というテキストをもとに、音楽・美術・文芸・

など、およそ芸術と呼ばれるものに共通する事柄について考えた。たとえば、芸術作品には形式と内容があること、そして、形式の美しさを大切にすることもあれば、内容の真実味を大切にする人もいることを、音楽・美術・文芸それぞれについて考えた。授業は、おもに講義の形をとったが、適宜、関連する映像を見たり小レポートを書いたりした。

授業後半部では、一つ一つの作品に即しながら考えた。受講者がそれぞれ関心のある作品について発表をし、それをもとに皆で質問やコメント・感想などを出し合った。発表テーマには、次のようなものがあった。

「鋸など日用品による演奏」「シューマン」「キャラクター・デザイン」「世界の子供部屋」「ギャッベ（イラン遊牧民の絨毯）」「ドビュッシーの作品」「パフォーマンス・アート」「ピカソの作品」「昆虫・動物を使ったアート」「ベルリオーズ」「中国の切り紙と少数民族の服飾」「多和圭三」「ストップモーション・アニメーション」「直島のアート」「子供が音楽を楽しむために」「音・色のイメージと感情」「飴細工」「タトゥー（刺青）」「アンサンブルについて」「パイプオルガン」「アイリッシュ音楽」「ショパン《舟歌》の分析」「音楽でメッセージ発信」

それぞれに意欲的な発表で、発表をめぐる皆のやりとりも活発だった。担当者は、できるだけ発言を少なくし、皆の言葉と作品の形とを媒介する役割を果たすよう努力した。

3、アンケートとその回答

アンケートは記述式のものとし、(I) 授業前半部と (II) 授業後半部、それぞれについて、

- よかった点、よくなかった点、
- ここをこうすればよいと思う点、

の記述を求めた。その回答には、(I) (II) それぞれ、次のようなものがあった。順不同に列挙する。

(I) 授業前半部

- 「芸術とは」という難しいテーマだったので、とっつきにくい感があったけれど、理論的に考えることの大切さも分かった
- 音楽と美術の垣根がなく好感が持てる説明だった
- 改めて芸術について考えることができた
- 説明は聞いていて、わかりやすく理解することができました
- たまにビデオを見せてもらえたところは良かった。話しをずっと聞いているのは眠くなった
- 一方的な説明にならないよう、もっと生徒の意見や感想を引き出すためにディスカッションを取り入れたらいい
- 芸術の本質について様々な視点から考えることは難しかったです
- 芸術の何か根本的な部分を再認識できた気がして、これから先の勉強にも役に立つ気がした
- 毎回、参考資料があると、より分かりやすくなると思う
- ディスカッションを取り入れる等、意見交換の時間を設ける
- もっと映像とか見たいと思いました

(II) 授業後半部

- 発表を聞くのがとても楽しかった
- それぞれ考えることが違って、発表の内容もすごく個性があって面白かった
- 音楽のことについて美術的なことについて、またその他のことについても、様々な面から「芸術」について考えることができた
- とても興味深かったです。面白い授業でした
- 発表の前にあらかじめテーマを伝えたら、より実りのあるものになると思う
- 映像機器を使って見たり聞いたりできた
- 音楽の分野に視野が広がった
- 皆のおすすめの美術や音楽を知ることができて、とても楽しかった

○非常に良かった。比較的自由な雰囲気の中で、何にもしぼられず、自分の思う芸術をそれぞれ思いっきり熱く紹介できていて、知らない世界をのぞけた気がする

- 一つ一つの発表に対して、コメントカードを作成したら、発表者のためにもなるのでは
- 友だちの発表をきくのは楽しかった！
- 自分がふだん接することのない美術のことが多く知れた
- 音楽と美術の学生が共同なところがとても良いと思う。それぞれ刺激を受けるし
- とても面白いです
- 「なるほど～」とか「すご～い」とか驚きや発見があったのが楽しかった
- よかったと思います

4、今後の課題

(I) 授業前半部については、改善すべきところが多々あるように思われる。アンケートの回答にあるよう、「一方的な説明にならないよう」、できるだけ多く「ディスカッション」「参考資料」「映像」を取り入れるなど工夫をしたい。(II) 授業後半部については、「面白い」とか「楽しかった」という回答が多かった。担当者も、面白かった。アンケートの回答にあった「コメントカード」は、来年度さっそく取り入れることにする。

なお、教育学部DP【芸術文化課程】に対応したアンケートの回答は、以下の通り。

4段階の自己評価	1	2	3	4
DP 1 (知識・理解)	0	3	12	3
DP 2 (思考・判断)	0	5	10	3
DP 3 (技能・表現)	1	8	8	1
DP 4 (関心・意欲)	1	4	10	3
DP 5 (態度)	1	4	9	4